

出たりといへり、されど俗に雨やさめと泣ともいへば、さめは小雨の義なるにや、沙石集に、さめほろとなきく、するとも見えたり、

〔神代直指抄三〕なきさはめの命

此みことは、死喪の事をつかさどる神なり、ゆへに、なきさはめの命と申す、今人泣涕する事をサメザメトナクト云、

〔宇治拾遺物語一〕これも今はむかし、ゐ中のちごのひえの山へのぼりたりけるが、櫻のめでたく

さきたりけるに、風のはげしくふきけるをみて、このちごさめくとなきけるをみて、略下

〔倭訓栞前編二十八〕ほろく。略中 蜻蛉日記に、ほろくと打なきてといひ、砂石集に、さめほろ

となきくと見えたり、梵書に發露涕泣といふ義にや、清輔

旅づともてるかれいひほろくと泪を落る都思へば

〔古今著聞集相撲強力伊成略中弘光が手を取て、うしろざまにあしくつきたるに、滞なくなげら

れて、此度はのけざまにつよくまろびぬ、と計有ておきあがり、烏帽子の落たるををし入て、帥の

前にひざま付て、ほろくと涙をこぼして、君の見參に入侍らんも、今日計に侍とて走り出にけ

り、

〔沙石集九下〕迎講事

丹後國普申寺ト云所ニ、昔上人有ケリ、極樂ノ往生ヲ願テ、萬事ヲ捨テ、臨終正念ノコトヲ思ヒ、聖

衆來迎ノ儀ヲ願ヒケルアマリ、セメテモ心ザシノ切ナルマ、世間ノ人ハ、正月ノ初ハ思ヒ願フ

コトヲ祝事ニスル習ナレバ、我モ祝事セントテ、大晦日ノ夜、一人ツカフ小法師ニ狀ヲ書テトラ

セケリ、此狀ヲ以テ朝夕元日ニ門ヲタ、キテ物申サントイへ、何クヨツト問バ、極樂ヨリ阿彌陀

佛ノ御使也、御文アリトテ、此狀ヲ我ニアタヘヨト云テ、御堂ヘヤリヌ、教ノ如クニ云テ、門ヲタハ